

この事から、我々の行った母乳栄養確立への援助指導は、人工栄養を減少させ、経産婦に於ける母乳栄養の定着率を高め、又、母乳栄養への移行を高める役割をしたものと思われる。

以上の成績より、

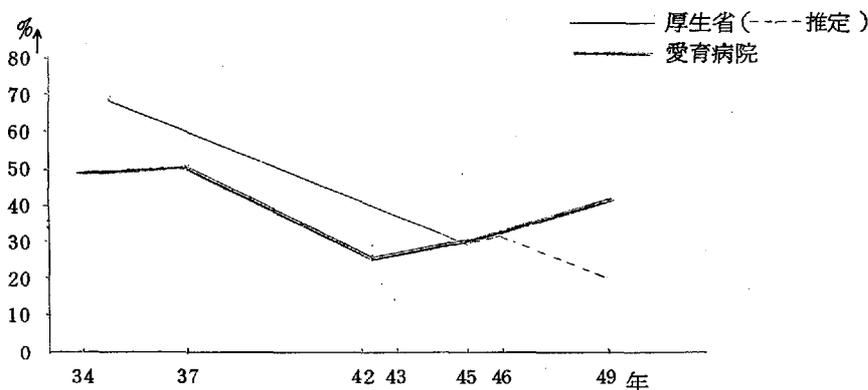
- ①退院時1回直接授乳量40ml以上の時は、母乳栄養確立が容易であると考えられる。
- ②褥婦への援助指導によって、母乳栄養の確立を推進し、維持出来ると共に、人工栄養、混合栄養の率を下げる事が出来る。
- ③褥婦への援助指導は、初回分娩時より指導する必要があると思われる。

## はじめて人工乳を与える時の母親の判断について

愛育病院 内藤寿七郎，澤田啓司，島 栄子他

母乳栄養が顧みられ、厚生省からも母乳推進運動が打ち出されている今日、生後1カ月までの母

図1 1カ月児の母乳栄養の年次推移



乳栄養の年次推移をみると、愛育病院では、昭和30年代では全国値より下まわり、45年には逆転、47年からは増加の傾向がみられる。(図1)49年の当院における母乳栄養を月別にみると、退院時9割を占める母乳栄養が1カ月には5割に落ちその後はゆるやかなカーブをもって減少していくのがわかる。(図2)そこで新生児期に初めて粉乳を使い時の母親の判断を調査することがその後の母乳栄養率を高めるのに効果的であると考え、本調査にとりかかった。50年6、7、8月の調査期間に当院で出産し、4～5週を経過した母親110名中、協力を依頼できた50名について家庭訪問を行い、訪問時までの授乳及び生活の実態の聞き取り調査を行った。(調査表参照)

当院では母児別室制とし、生後24時間で糖液、その後3時間で母乳開始、母乳以外には生後2日

図2 昭和49年愛育病院における  
母乳栄養の月令別推移

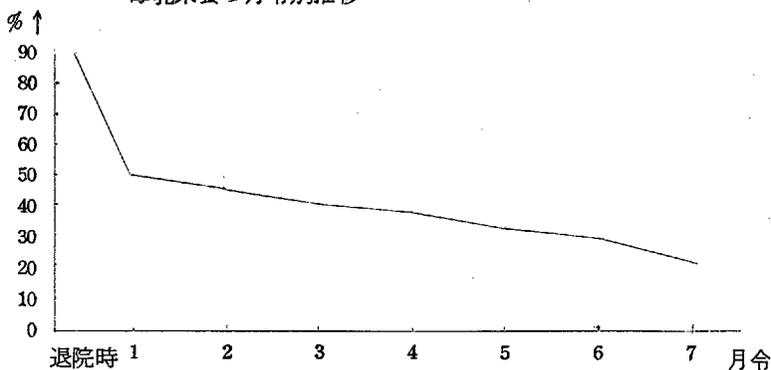


図3 愛育病院の新生児管理及び母乳指導

新生児管理

- 1) 母児別室
- 2) 生后24時間で5% G<sub>l</sub>液 その後3時間で母乳に
- 3) 生后2日までは5% G<sub>l</sub>液 をたし、その後はもらい乳を なければ5% G<sub>l</sub>液をたす
- 4) 入院中の混合栄養は医師の指示による 原則として生后5日目以降

母乳指導

母親学級 4回1コース・希望者・第3回目に新生児室勤務者により  
母乳主義 乳頭マッサージ(プレストシールド)

退院指導 出産後3～5日目の母親に、新生児室勤務者により  
母乳栄養の利点 1カ月健診までは母乳で頑張るよう  
母乳不足の見分け方 粉乳の使い方

目までは糖液、その後はもらい乳か又は糖液を足すことにしている。母乳指導は母親学級と退院指導の場で図のような項目を話すことにより行っている(図3)。

訪問時栄養方法は母乳29名、混合19名、人工2名であったが(図4)、今回は粉乳を使い始めた者として混合人工を合せ21名を混合群として扱った。1日体重増加量の平均は、母乳44.7g、混合47.1gであり、大差はなかった。混合に移った時期は入院中1名、退院当日4名、その後1週間に8名と混合群の半数以上が退院後1週間までに粉乳を使い始めている。(図5, 6, 7, 8)

粉乳を足しはじめた理由を延べ人数で見ると泣きが14名、乳量が少ないが11名と多くみられる。泣きをあげない7名についてみると入院中に混合に移った1名、もらい乳をしていたので退院当日

図4 対象について(50例)

出生順位	第 1 子		第 2 子		第3子以上	
出生体重	2501 ~ 3000		3001 ~ 3500		3501 ~ 4000	
授乳への支障	有		無			
父の年齢	20代		30代		40代	
母の年齢	20代			30代		40代
父の職業	サラリーマン			自 営	自由業	学生
母の職業	サ ラ リ ー マ ン	主 婦				
父の学歴	中 学	高 校	専 門	短大	大 学	
母の学歴	中 学	高 校	短 大	大 学		
退 院 先	自 宅			父の 実家	母の実家	叔母の家
住 居	高層集合住宅			一戸建家屋		民間アパート

図5 家庭訪問時の栄養法

母 乳	混 合	人 工	計
29	19	2	50 例

図6 1日体重増加量(退院后より家庭訪問までの期間)

g/D	~ 30	31~50	51 ~	計	平均
母 乳	1	17	11	29 例	44.7g/D
混 合	1	15	5	21	47.1

図7 混合栄養に変わった時間

入院中	退院日	退院后 7日	～14	15～	計
1	4	8	4	4	21例

図8 退院前日の補給状況  
(5%グルコース及び母乳)

補給なし	補給あり	計
27	23	50例

図9 どうしてミルクを足しはじめたのですか(21例)

1	泣き	14例
2	乳量が少い	11
3	周囲の人のすすめ	6
4	家族への配慮	4
5	足してみたらのんだ	4
6	病院でもらい乳をのんでいたのが当然と思って	3
7	病院からの指示があって	2
8	母の疾病	2
9	育児への疲労感	2
10	便秘(半日出ないのが1回)	1
11	児の疾病を心配して(泣くと悪化する?)	1
12	扁平乳頭	1
13	母に外出予定あり 練習のため	1

泣きを理由にあげなかった 7例

病院からの指示	1
病院でもらい乳...	3
母の疾病	2
叔父の強制的すすめ	1

図10 母乳を続けることが出来た理由(29例)

1	ミルクを与えたくない	9例
2	母乳分泌良好 → 自信 決意	8
3	病院の指導 → 1カ月間は頑張ろう	8
4	十分な栄養	7
5	第1子の時の経験	5
6	心身の休養がとれる	5
7	周囲の人の協力とすすめ	3
8	家系的に出ると思って	3
9	その他	3

図 11 産后1カ月未満の母親の生活

家事及び育児への参加度

母乳 29例	69.0%	51.7%	51.7%	75.9%	62.1%
	炊事	買物	掃除	洗濯	沐浴
混合 21例	81.0%	66.7%	71.4%	76.2%	66.7%

母親の睡眠時間

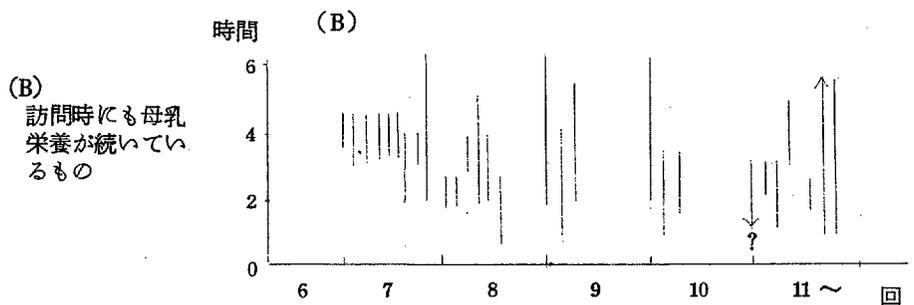
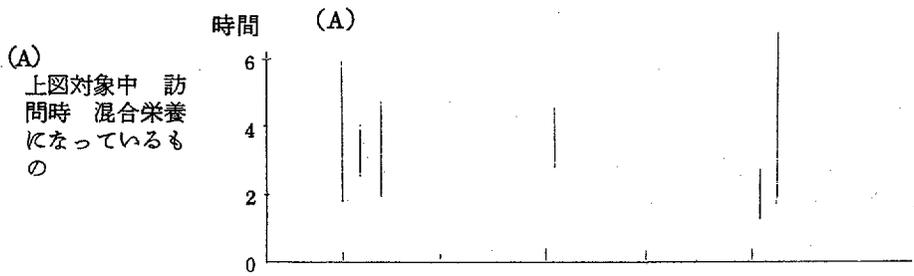
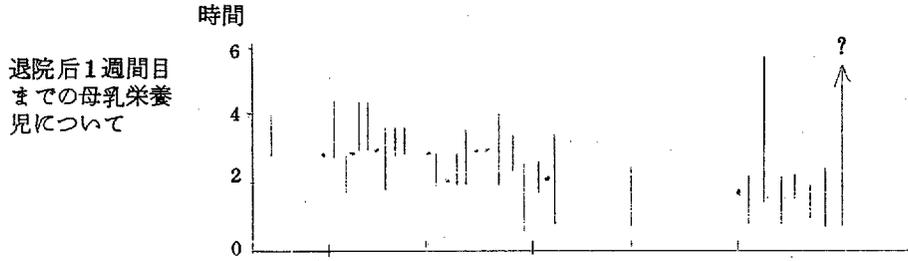
5時間平均

5～8時間未満

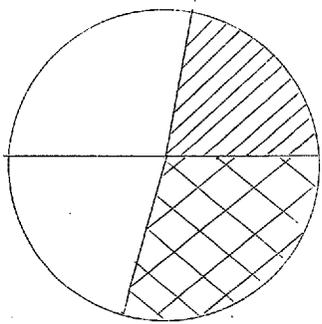
8時間以上不明

母乳 29例	6.9%	41.4%	44.8%	6.9%
混合 21例	4.8%	61.9%	23.8%	9.6%

図12 授乳間隔と授乳回数



よく泣いた



授乳の間隔が短い

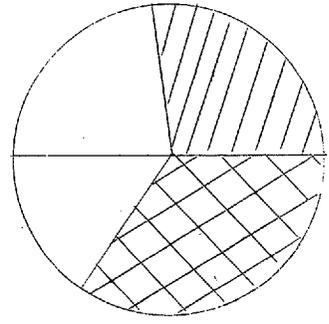


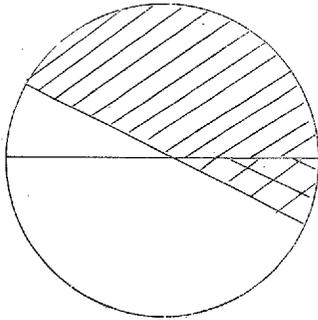
図13 乳房がはってきた時期

	入院中	退院後~7日目	8日目~	なし	計
母乳	24	1	1	3	29例
混合	16	1	0	4	21
計	40	2	1	7	50

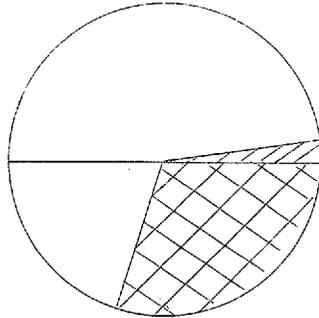
母乳がよく出ると感じた時期

	入院中	退院後	なし	計
母乳	14	8	4	29例
混合	7	3	14	21
計	21	11	18	50

出すぎてむせる

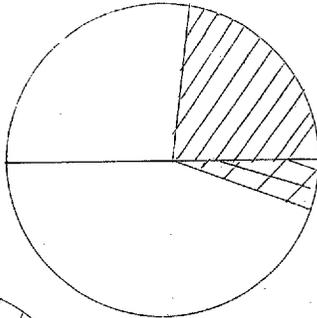


出が悪かった

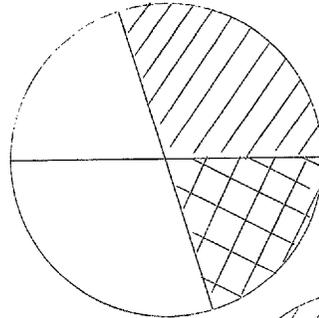


母乳で育てられると思った

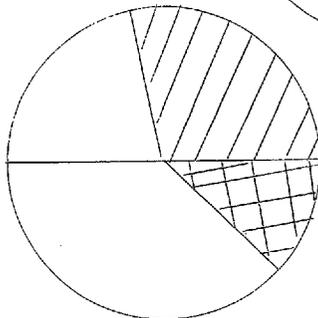
妊娠中



入院中



退院後



現在

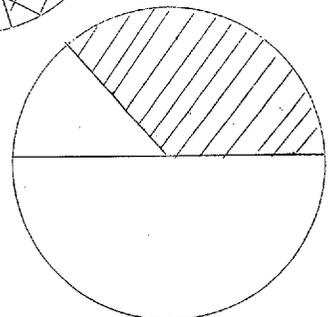
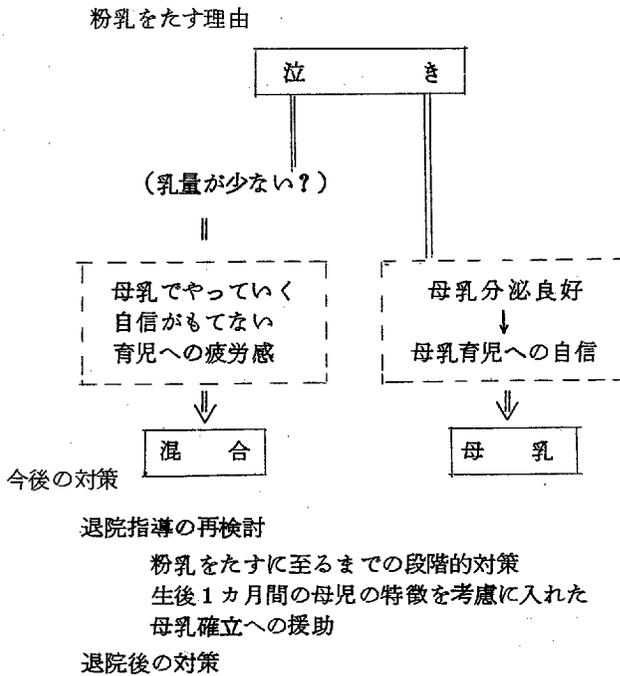


図 14



より混合にした3名、乳腺炎、乳首が痛いという母体の原因2名、叔父のすすめという1名である。泣きと重複してあげられたものは、周囲の人のすすめ、泣くとうるさい等家族への配慮、足したら飲んだ、母親の疲労、児の便秘、児の疾病、扁平乳頭、外出の為の練習である。母乳群の中で粉乳を足そうと思った者は4名であり、その理由はいずれも泣きであったが、うち3名は1カ月検診まで待とうと思ひ、1名は泣きが1日の現象でおさまらずにすんでいる。また1日体重増加量が17gであるにもかかわらず、泣かないために粉乳を使わずにきた者1名、一方混合群には、入院中母乳でと自信があるにもかかわらず、日中泣いてばかりで3日に2回程度の粉乳を与え、1日体重増加量64gをみる者がいた。体重をめやすに思った者は今回1名しかみられず、便秘に注目した者は半日排便がなかったことを便秘と考えた1名のみであった。以上からわかるように今回の対象の中では、泣きという現象で乳量が少ないと判断し粉乳をたし始めている例が多くみられた。

(図9)

母乳を続けることができた理由は、粉乳を与えたくない、母乳分泌良好、病院の指導をあげる者が多くみられた。(図10)

母親の生活をみると家事及び育児を自分でしていた者は、母乳混合群に大差なく、睡眠時間は母乳群にやや長いようである。円グラフでこれらに対する母親自身のうけとめ方をみると、家事に忙しい、休む暇がない、睡眠が充分とれないと答える母親は、混合群に多くみられた。(図11)

授乳回数を横軸に、間隔を縦軸にとりその関係のみたが、大差はみられず、それに対しよく泣い

た、授乳間隔が短いというけとめる母親はやはり混合群に多くみられた。(図12)

母乳分泌に関してはってきた時期は、母乳混合群とも入院中に多くなっているが、よく出るとい  
う感じについては母乳群の半数が入院中によく出ていると感じているのに対し、混合群の2/3はよく  
出る感じを自覚しえなかったようです。このようにみると、母親の家事、育児、睡眠や児の状況に  
は、母乳混合群に大差は認められなかったが、混合群には、疲れる、眠れない、母乳が出ない、よ  
く泣くと受けとめる母親が多くいた。(図13)

今回の調査から、粉乳を足す時は赤ちゃんの泣きという現象が直接のきっかけとなり、その背景  
には母親の乳汁分泌に対する不安と育児への疲労感が大きく影響していることがわかる。(図14)  
今後はさらに泣きという現象についての洞察を深め、生後1カ月の母児の特徴を踏まえた母乳指導  
基準を考えていくこと、少なくとも児が頻回に泣き母親が母乳不足を疑い始めた時にとる具体的な  
方法についての指導を加えることが必要と思われる。また当院においては、もらい乳の使い方を検  
討し、1カ月検診までの間に粉乳を使おうかと迷う母親の相談を受け入れ、適切な援助を与える体  
制が役立つと思われる。

附

## 調 査 表

⑨ 母 混 人  
No. \_\_\_\_\_

チャート	A- _____	母の名	_____	児の名	_____
訪問日時	____月____日	訪問者	_____	1カ月検診予定	____月____日
住 所	_____			Tel	_____

### ① 児

1. 男, 女      2. 出生 50年\_\_月\_\_日      3. 第\_\_子
4. 体重, 出生時 \_\_\_\_\_g      退院時 \_\_\_\_日 \_\_\_\_\_g      訪問時 \_\_\_\_日 \_\_\_\_\_g  
    1日体重増加量 \_\_\_\_\_g      体重が増加に転じた日令 \_\_\_\_日
5. 出生時異常(無 有) \_\_\_\_\_
6. 何か御心配な事(無 有) \_\_\_\_\_
7. 医者にかかったこと(無 有) \_\_\_\_\_
8. 家庭訪問(無 有) \_\_\_\_\_

### ② 母

9. 出産に愛育病院を選んだ理由 \_\_\_\_\_  
    愛育病院は母乳主義の病院だと御存知でしたか(はい いいえ)
10. 妊娠前の健康状態(良, 不良) \_\_\_\_\_
11. 妊娠中の異常(無 有) \_\_\_\_\_
12. 出産時の異常(無 有) \_\_\_\_\_
13. 産褥期の異常(無 有) \_\_\_\_\_

③お住い

14. 退院先 自宅 父の実家 母の実家 他 \_\_\_\_\_ 計 \_\_\_\_\_ 人

15. 退院してから今日までにお住いが、かわりましたか(はい はい)  
いつ \_\_\_\_\_ どこに \_\_\_\_\_ 計 \_\_\_\_\_ 人

④家族及び同居人

	年令	職業	学歴	

	続柄	年令	

	続柄	年令	

	退院後	その間の変化	現在
☆栄養方法			
☆授乳回数 分 × 回 授乳に要する時間 授乳間隔 授乳方法			
☆母 睡眠時間 よく眠れましたか 何故ですか 床あげ _____ 日			

	退 院 後	その間の变化	現 在
☆母 食欲はありましたか			
☆母 日常生活で疲れたと感じたことがありますか			
☆児 飲んだあとによく眠りましたか			
☆児 便の回数便秘気味になったことは			
☆家事育児はどのよう			
うに			
炊 事 ……>			
買 物 ……>			
そ う じ ……>			
せんたく ……>			
沐 浴 ……>			
他 ……>			

☆母乳について

母乳が出はじめたのは \_\_\_\_\_ 日目頃

母乳がはってきたと感じたのは \_\_\_\_\_ 日目頃

母乳がよくでていると感じたのは \_\_\_\_\_ 日目頃

母乳でやっていけそうだと思ったのは \_\_\_\_\_ 日目頃

吸わせると空になり次の授乳前には はって準備ができている状態になったのは \_\_\_\_\_ 日目頃

母乳のはりが悪くなってきたと感じたのは \_\_\_\_\_ 日目頃

ミルクははじめて使ったときの御様子

ミルクを使わずにすんだのは

母乳の人 ミルクを足そうと思ったことがありましたか

何故ミルクを使わずにすんだのでしょうか

何故母乳が続いていると思いますか

母乳を出す努力について、なされたものがあれば、○印を入れて下さい。

	妊 娠 中	入 院 中	退 院 後	現 在	
1. 食事について 何でも食べた					
2. 特別に何かを食べた					(どんなもの)
3. たくさん食べた					
4. 薬をのんだ(栄養剤を含む)					(何)
5. 注射をうけた					
6. 睡眠をとるよう気をつけた					
7. 乳房マッサージをした					(誰が)
8. 授乳のとき左右交互に与えた					
9. 空になるようにした					
10. 根気よく吸わせた					
11. 母乳で育てられると思った					
12. その他( )					
13. ( )					

母乳を吸わせている期間中に以下のようなことがありましたか

お子さん	.....	体重が増えてないと思った	(はい	わからない	いいえ)
		よく泣いた	(はい		いいえ)
		授乳の間隔が短い	(はい		いいえ)
		あまり眠らない	(はい		いいえ)
		いつまでも母乳に吸いついて離さない	(はい		いいえ)
		出すぎて むせる	(はい		いいえ)
		母乳に吸いつかない	(はい		いいえ)
		すぐ母乳をはなしあばれる	(はい		いいえ)
		便秘気味になった	(はい		いいえ)
		母乳がきらいのように思える	(はい	わからない	いいえ)
		母乳を吸う力が弱い	(はい	わからない	いいえ)

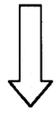
お母さん	.....	母乳の出が悪かった	(はい	わからない	いいえ)
		母乳の色がうすい	(はい	わからない	いいえ)
		乳首の形が不適當	(はい	わからない	いいえ)
		体が弱い(持病がある)	(はい		いいえ)
		母乳を吸わせていると体型が悪くなると思う	(はい	わからない	いいえ)
		母乳を吸わせていると疲れる	(はい		いいえ)
		家事に忙しい	(はい		いいえ)
		休むひまがない	(はい		いいえ)
		睡眠が充分とれない	(はい		いいえ)
		夜おきるのがつらい	(はい		いいえ)
		栄養が充分とれない	(はい		いいえ)
		精神的につらい	(はい		いいえ)
		産後病気をした	(はい		いいえ)
		乳腺炎をした	(はい		いいえ)
		栄養をとっても体重ばかり増えて母乳がはらない	(はい		いいえ)
		仕事につく予定がある	(はい		いいえ)
		仕事をはじめた	(はい		いいえ)

兄弟のいる人	.....	上の子がやきもちをやくので授乳がしにくい	(はい		いいえ)
--------	-------	----------------------	-----	--	------

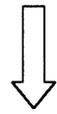
母乳は	.....	飲んだ量がわからないので不安になる	(はい		いいえ)
		赤ちゃんづれの外出に	(便利	わからない	不便)
		汚染されていると思う	(はい	わからない	いいえ)
		離乳するときむずかしいと思う	(はい	わからない	いいえ)
		授乳する時便利だと思う	(はい		いいえ)
		経済的と思う	(はい	わからない	いいえ)
		吸わせていると 母親の体の回復が早められると思う	(はい	わからない	いいえ)
		吸わせていると 児は病気にかかりにくいと思う	(はい	わからない	いいえ)

ミルクは	.....	飲ませやすい	(はい	わからない	いいえ)
		便利だと思う	(はい	わからない	いいえ)
		よく太ると思う	(はい	わからない	いいえ)
		赤ちゃんを残して外出するとき便利だと思う	(はい	わからない	いいえ)

ミルクを使うとき	.....	医師保健婦助産婦の指示があった	(はい		いいえ)
		家族知人に相談した	(はい		いいえ)
		育児書を参考にした	(はい		いいえ)
		自分の判断で決めた	(はい		いいえ)



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



母乳栄養が顧みられ、厚生省からも母乳推進運動が打ち出されている今日、生後 1 カ月までの母乳栄養の年次推移をみると、愛育病院では、昭和 30 年代では全国値より下まわり、45 年には逆転、47 年からは増加の傾向がみられる。(図 1)49 年の当院における母乳栄養を月令別にみると、退院時 9 割を占める母乳栄養が 1 カ月には 5 割に落ちその後はゆるやかなカーブをもって減少していくのがわかる。